

【課題番号：HPPA2503】

青森県内の外国人対象のボランティア活動

三好美紀、グローバルヘルスプログラム(GHP)活動部

Key Words ①グローバルヘルスプログラム ②在日外国人 ③ボランティア活動

I. はじめに

本学では、「Global な広い視野をもち、Diversity & Inclusion の理念の下に、様々な場においてヒューマンケアを実践し、未来を創造することのできる人材を育成する」ことを目的として、令和7年4月に「グローバルヘルスプログラム(GHP)」を開設した。GHPを履修する学生は、海外の言語や文化を学び、外国の保健・医療・福祉の現状を知る機会を得ることにより、専門職として共に働きながら、国際的な視野をもって地域の外国人を支援できる能力の取得を目指している。本活動は、GHP チーム教職員^{*}と GHP 履修学生で構成する「GHP 活動部」が取り組む活動の1つとして位置づけている。

II. 目的

GHP 履修学生がそれぞれ学科の専門性を活かして「外国人対象のボランティア活動」の現状に係る情報収集および選定基準の検討を行い、積極的に参加する体制づくりを図ることを目的とする。

III. 活動方法

GHP 履修学生（初年度は7名）は GHP チーム教職員からの情報提供をふまえて定期的にミーティングを開催、「外国人対象のボランティア活動」の現状について情報収集および選定基準の検討を行った。得られた情報をもとに一部の活動には実際に参加した。併せて、学外からの講師招への検討も行った。

IV. 活動結果

各自で収集した「外国人対象のボランティア活動」の情報は、学生間で共有・確認した上で、順次 Excel ファイルに入力してデータベース化している。選定基準については、本年度の検討においては日程（例：平日夜、土日祝、夏季休暇中など学業に支障がない日時の開催）や費用負担の程度（例：参加費の額、本助成からの旅費支給の有無）、使用言語（例：英語のみではなく日本語も使用する交流）、主催団体の実績（例：既に定期的に活動を行っている）などがあげられた。

令和7年度に GHP 履修学生が実際に参加した活動について概要を表1に示す。活動に参加した学生はレポートを作成し、GHP 活動部内で共有した。学生が活動を通じて得られた成果として「食文化の違いを感じ、言語の壁を超えたような文化を感じ取ることができた」、「たのしみながら外国の方と交流できる機会が得られ、コミュニケーションスキルの向上も実感した」、「青森県で働く外国人職員数が多いことを改めて知った。青森県の文化を知り、外国人介護職員と関わる良い機会であった」、「青森県内の多国籍の留学生と日本人学生の良い交流機会であった」、「国際交流は難しくハードルが高いものという印象であったが、国や文化が違っていても会話を楽しむことができることを知り、国際交流に大きな勇気はらないという学びを得た」などが挙げられた。

表1. 外国人対象のボランティア活動概要 (令和7年度)

日程	活動内容	場所	参加者	GHP 履修学生の参加人数
7月16日(水)	青森日本語クラブ主催「多国籍の食文化を楽しもう」において参加者と各国の料理を調理・試食を通じた交流	青森市働く女性の家アコール	25名(フィリピン、ロシア、タイ、イラン、パキスタン、アメリカ、日本) 	3名
8月22日(金)	「第43回三沢国際サマーフェスティバル」における縁日出店補助および参加者と交流	三沢市アメリカ広場周辺	「第43回三沢国際サマーフェスティバル」来場者	3名
9月11日(木)	「外国人介護職員交流会」における参加者と学生ボランティアとの交流	ホテル青森	青森県で介護職員として働く外国人60名程度	2名
11月8日(土)	「第31回青森県留学生交流ジャンボリー」における参加者とのディスカッションおよび体験学習を通じた交流	八食センター道の駅とわだ	青森県内6つの高等教育機関の学生・教職員計21名 (イタリア、中国、ミャンマー、日本) 	2名
12月2日(火)	「Aomori FCS」における参加者とのディスカッションを通じた交流	青森市役所	青森市在住の外国人と青森市民 	2名

学外からの講師招へいについては、本年度はまずGHPチーム教員より講師（青森県立中央病院で院内通訳者をされている方）の提案を受けてGHP履修学生間で検討を行い、講師をお願いすることとした。そして、令和7年11月26日(水)に上記講師を招へいし、「医療通訳の現場から学ぶ未来の私たちの役割」をテーマにGHP座談会を開催した。本座談会に先立って、GHP履修学生は、医療通訳について事前学習を行い、講師への質問を準備した。当日はGHP履修学生全員が参加し、多くの専門用語を必要とする医療通訳の難しさ、患者様が安心して日本で医療が受けられるようなコミュニケーションの工夫の重要性などそれぞれ貴重な学びを得ることができた旨の感想が報告された。なお、本座談会の開催報告は本学ホームページ上のInstagramに掲載した。



V. 考察

本年度は「GHP活動部」初年度であり、活動の初動が遅れた反省はあるが、GHPチーム教職員が定期的に打ち合わせ会議を実施してGHP履修学生をサポートしてきた。その結果、特に後期は学生が主体となって積極的に活動に取り組むことができたと考える。「外国人対象のボランティア活動」の情報収集においては、当初は（学内教員からの情報や本学ボランティア希望者登録制度（ぼらまっちゃん）からの情報をはじめ）GHPチーム教職員からの学生への情報提供が中心となっていたが、次第に学生自身で情報収集を実施できるようになっていた。また、実際に「外国人対象のボランティア活動」に参加した経験ならびに活動を通じて得られた学びをふまえて、これら活動の選定基準について（前述した「日程」や「費用」等に加えて）「内容」を重視する声も挙がっており、次年度はさらに具体的な検討が行われることが期待できる。学外からの講師招へいについても、既に次年度の候補者について学生から要望が挙がっているところであり、本年度の成果および課題をふまえて次年度も引き続き、「GHP活動部」としての活動を展開していきたい。

※GHPチーム教職員（敬称略）

リーダー	三好 美紀	栄養学科	鹿内 彩子
看護学科	出貝 裕子、久保 宣子	健康科学総合教育部門	小笠原 メリッサ ホーン・クリストファー
理学療法学科	渡邊 龍憲	事務局	伊藤 彩子
社会福祉学科	権 順浩	アドバイザー	山本 茂、川内 規会